

Shall we Community School?

コミュニティ・スクール^{※1}（学校運営協議会制度）の導入の背景

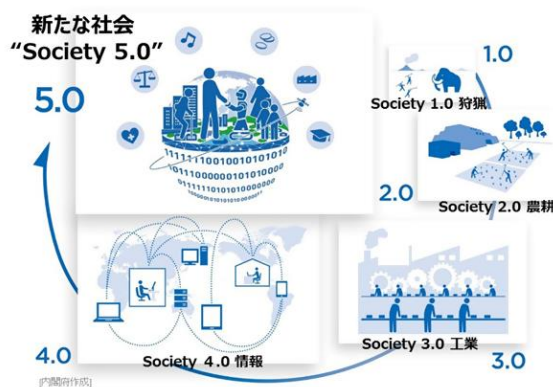
子どもたちが社会の創り手となる将来については、グローバル化、人工知能の進化などにより、**変化が激しく予測困難な時代が来る**ことが予想されています。子どもたちの半数近くが現在存在していない職業に就くことになり、学校で教えていることが将来の社会で通用しないのではないといった指摘がされています。

一方で、2024年の日本を含めた6カ国の18歳前後の意識調査^{※2}の結果によれば、日本の若者のうち「自分の行動で、国や社会を変えられると思う」と回答したのは半分以下で、調査国の中では最下位でした。

自分の力で人生や社会をよりよくできるという実感を持つためには、社会のつながりの中で学ぶことが重要です。この実感は、変化の激しい社会において、子どもたちが困難を乗り越え、未来に向けて進む希望や力になります。

また**現在、学校と地域を取り巻く課題はますます複雑化・多様化**しています。学校は、特別な配慮を必要とする児童生徒の増加など、多様な児童生徒や保護者への対応が求められています。そのような学校の役割拡大に伴い、教職員の業務量が増加していることも課題となっています。

コミュニティ・スクールは、各学校が掲げる目標や先述の課題を学校と地域が共有し、連携・協働しながら、子どもたちの笑顔あふれる学校づくりを通して、**未来の社会の創り手となる子どもたちの生きる力を育む**ことをめざします。



自身と社会の関わりについて 1/2

自身と社会の関わりについて、以下の全ての項目で日本は6カ国中最下位となった。また、日本では、「自分は大人だと思う」「自分の行動で、国や社会を変えられると思う」が5割を切っているのが特徴的。

質問11：自身と社会の関わりについて、以下の項目に同意しますか。（単一回答、各国n=1,000）
※「同意」+「どちらかといえば同意」の回答率を、日本の高い順に掲載

（単位：％）	日本	アメリカ	イギリス	中国	韓国	インド
国や社会に役立つことをしたいと思う	64.3	78.4	77.7	83.6	71.1	85.9
自分は責任がある社会の一員だと思う	61.1	79.4	80.7	82.1	74.5	86.8
ボランティア活動に参加したい	60.4	76.3	88.6	89.8	70.5	78.2
慈善活動のために寄付をしたい	58.4	78.4	79.5	87.2	86.6	84.4
自分は大人だと思う	49.6	79.6	75.8	90.0	54.8	81.7
自分の行動で、国や社会を変えられると思う	45.8	65.6	56.1	83.7	80.8	80.6

15

日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

※2 18歳意識調査「第62回 -国や社会に対する意識（6カ国調査）-」報告書 日本財団 2024年4月3日

※1 コミュニティ・スクール：「学校運営協議会制度」や「学校運営協議会を設置した学校」を意味します。（文部科学省 HP より）

コミュニティ・スクールとは（制度概要）

- 地域とともにある学校づくりを進める手段として、保護者を含む地域住民等が学校運営の「当事者」として参画できる仕組み

法律※3に基づき、学校運営協議会の役割や権限が明確化されているため、学校だけに任せることなく、保護者や地域住民等が学校運営の当事者として、自立した学校と対等な立場で、継続して学校運営に関わることができる

- 学校と地域を取り巻く課題解決のための仕組み（プラットフォーム）

学校や児童生徒が抱える様々な課題を学校だけに任せるのではなく、地域全体で解決を図る必要性

→ 学校と地域が目標や課題を共有し、協議する仕組み = コミュニティ・スクール

→ 保護者や地域住民等が当事者意識を持って参画することで、様々な取組が活性化

※3 学校運営協議会とは、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5」に基づいて、教育委員会が学校に設置するものです。

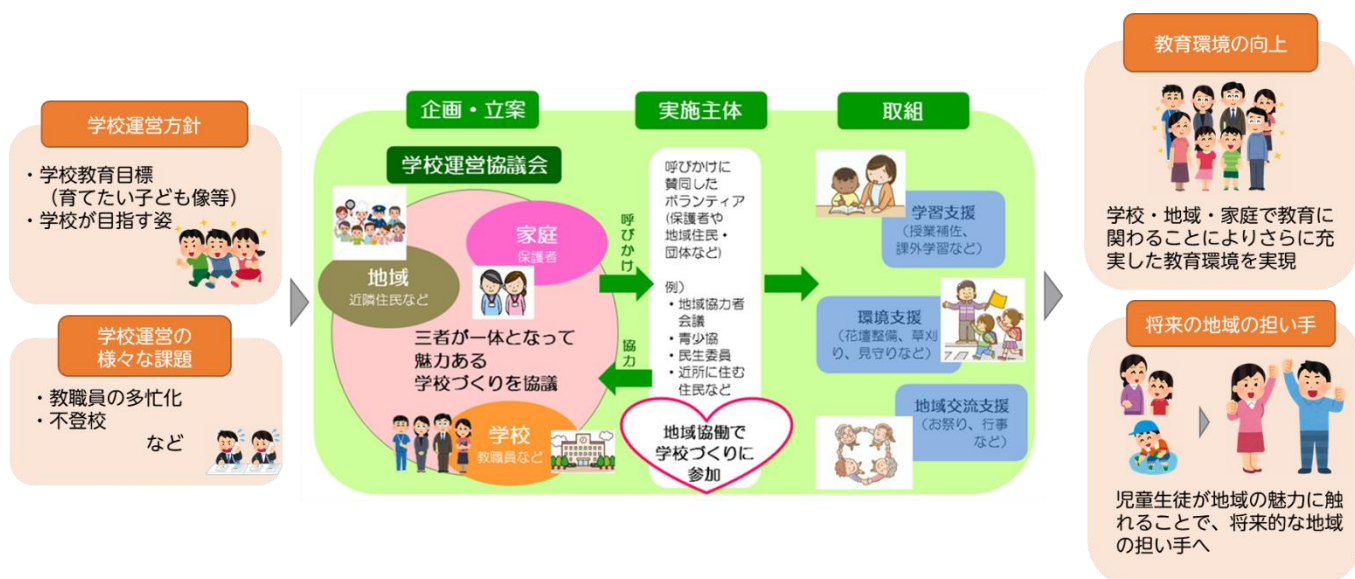
藤沢市がコミュニティ・スクールでめざす2つのビジョン

①学校教育目標や学校が目指す姿の実現

学校運営に関する基本的な方針の承認をすること（必須）で、各学校が掲げる「学校教育目標」や「学校が目指す姿」を学校と地域が共有し、熟議を通して学校運営に地域の意見を取り入れ、連携・協働しながら、地域と一体となった魅力ある学校づくり、子どもたちの笑顔あふれる学校づくりを実現できるようになること。

②将来の地域の担い手の育成

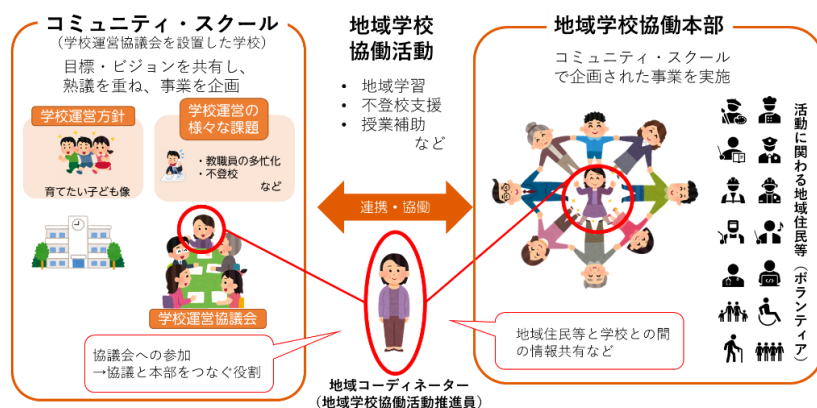
児童生徒が地域学校協働活動を通して、人・風土・文化・歴史といった地域の財産に接することで、一人ひとりが地域の魅力を認識し、地域に愛着を持つことで、将来的な地域の担い手として活躍すること。





地域学校協働本部との連携による地域学校協働活動

学校運営協議会と地域学校協働本部の双方が機能することにより、地域住民等の意見を学校運営に反映させながら、幅広い地域住民等の参画により、子どもたちの成長を支える活動（＝地域学校協働活動）の活性化につながるなど、両輪として相乗効果を発揮していくことが期待されます。今後、各地域の実情や特性に十分な配慮をしつつ、教育委員会のサポートにより、体制の構築をしていきます。



地域学校協働本部

協働活動サポーター（ボランティア）を募り、学校の支援等の活動をしていく体制です。

地域学校協働活動の事例紹介

地域資源・人材を活用した学習の実施、校外行事や下校時の見守りや不登校支援の人的支援などが保護者や地域の方の協力によって進められ、体験的な授業の実施や教職員が児童生徒と向き合ったり、授業準備のための時間の確保など教育環境の向上につながっています。

◇地域サークルとの連携体験活動（中学校）



◇校外行事の見守り・引率・手伝い（小学校）



地域学校協働活動に期待される関係者へのよい影響

子どもたち	地域の方と関わることによるコミュニケーション能力の向上や、多様な活動（支援）による豊かな教育環境の中で、健やかな成長が期待されます。
学校・教職員	保護者や地域住民等が学校運営に参画することにより、地域ならではの特色ある学校づくり、地域に開かれた信頼される学校づくりが進められます。
地域住民等	子どもたちのために多様な地域住民・団体等が積極的に関わることにより、今までにはなかった新たなつながりが生まれ、地域活性化に寄与します。

“Shall we Community School?”

ともに子どもたちを育み、よりよい未来を創っていきませんか♪